

がたくさんあります。友達とかに会うたり。でも何か違うから長くは住めないかな。短い期間で行くのは楽しいけど、そこで生活するのは多分難しい…。やっぱり住むのは日本かな。

日本での子育て・仕事

—日本での子育てはどんな感じでしたか？

面白かったのは幼稚園で、お母さん方のグループがあるんですね。フィリピンにもグループはありますが、あんまりグループにこだわらないですね。文化の違いかなって思いました。

幼稚園のとき最後の年にPTAの役員をやりました。だんだん幼稚園のことも覚えていったから、園長先生がグレイスさんやってみないかって言ってくれて。



幼稚園の親子遠足で、フィリピンでは親は参加しないので驚きました

かりの子にも「すぐに諦めないでやってみて」「本当に自分に合わなかったらそれでわかるから」と言っています。

これから

—これからの夢や、やりたいことはありますか？

フィリピンの子供、特に来日したばかりの子供たちと保護者をもっと支援したいですね。今、フィリピンナガイサは事務所が無いので、ちゃんと事務所があって、何かあったらすぐに行ける場所を作りたいですね。集まる場所。そこでみんなから相談を受けたり勉強したりとか。そういうところがあればいいですね。今、集まる場所は南部協働センターしかないんです。問題はお金ですね。家賃が…。

—拠点の必要性は他の団体からも聞きます。

ナガイサの周りにはみんな良い人ばかりです。半場さん、松本さん、山浦さん、吉田さん、田中さんも応援してくれています。フィリピン人も増えているし、困っている人もいるから、事務所はないけど、ナガイサはまだまだ活動しますよ(笑)。

—具体的にどんな支援を考えていますか？

みんなが自立するようになったら、うれしいんですけど実際はまだですね…。問題は保護者ですね。子供が学校に行きたいとか、高校、大学に行きたいって言うとお母さんたちはすぐにお金がかか

あと、スポーツでも友達ができました。子供を幼稚園に預けているときに、体育館や公園でインディアカカカグループに入って。インディアカ知っていますか？楽しいですよ(笑)。

—いろいろなことに積極的にですね！

子供会とかPTAも全部参加しました。子供会の役員もしました。やってみたいとわからないからとにかくやってみました。小学校でも中学校でもPTAの役員をやりました。私の日本語は十分ではなくて、そのときは読み書きもあまりできなかったから、「誰か一緒に教えてくれればやります。何かしらはできます」と言いました。それで、ぜひぜひひつて。

会議は月1回くらいだったし、資源回収の担当はそんなに難しくなかったです。パートナーのお母さんがすごく良い人で、「私が報告書を作るから、グレイスさんはこれやって」とか仕事を分けてくれました。できるところをやりました。

何でも参加するといろんなことが勉強になるんですね。わからないことがわかるようになりました。

—仕事についてはどうですか？

結婚後、最初に働いたのはスーパールのレジです。子供が3人もまだ幼稚園に入っていたときでした。そこも日本語がわからないとできなかったんですが、店長が優しく、面接でOKをもらいました。私が初めての外国人でした。今はそのスーパーは無いです。そこで2年間働きました。

その次は浜松市教育委員会が主催して

るって思うんですね。

あと、親子と一緒に住んでいなかった場合、子供の気持ちとお母さんの気持ち一致してないんです。ずつと離れて暮らしていて、大きくなってから急に日本に呼んでも、子供の食べ物の好き嫌いをお母さんがわからないですね。フィリピンで子供を育ててくれた人に電話して、アレレギーや好きな食べ物とか聞くんです。例えば、子供は海老が嫌いじゃなくて、アレレギーで食べられないのに、母親がそれを知らないから、海老の天ぷらをおいしいから食べなって強く勧めたり。そういうのは子供は辛いんですね。自分の親なのに。

—切ない話ですね。

未成年の子たちも問題ですね。学校にも通ってなくて、仕事もしてない子もいる。日本に来て勉強についていけない子たちもいる。もったいないと思います。そういう子たちに、「こっちにおいで。ここでちょっと一時間勉強しよう、あとはここで過ごして」とって、そういう子たちを支援しないとダメだと思います。「あなた夢ある？大人になったら何をしたい？何やりたい？」って。きつとあると思うんですが、そういうサポートをする大人が近くにいないんです。もし私が仕事をしていなかったら、これからどうするとかその家に話しに行くかもしれないですね。まだ10代なので、チャンスはあると思うんです。気持ちはずすごいあるけど、今はそこまで手が回らないのが残念です。

ハローワークでの訓練や日本語教室み

いた外国人の子ども日本語教室「はまっこ」(※3)の仕事をしました。最初にNPOの方(※4)から学校の先生と話すための日本語を勉強したり、教え方の訓練を受けたらして、小学校の初期適応指導に支援員として入りました。「はまっこ」には5、6年間のいたのかな。フィリピンナガイサでもボランティアを続けていて、ナガイサの活動が増える前までは、「はまっこ」にいましたね。

その後、HICEでタガログ語相談員をして、教育委員会での外国人児童生徒相談員の仕事に就いて今年で3年目です。仕事は好きですね。子供に関わるのが好きなんです。あと、浜松市外国人市



フィリピンナガイサの活動を大学で紹介したこともあります

たいなところに毎日行ければいいのに。でもサポートしないと行けないんですね。保護者に言っても、紙渡しても、なかなか一人では行かないので、一緒に歩いていくようなサポートがほしい。それには人手がいりますね。それが足りないかな。

—いつかみんなが集まれるそんな場所を作りたいですね。

民共生審議会の委員と静岡県の多文化共生審議会の委員をそれぞれ2年間やりました。何でも挑戦しないとわかんないですよ。やってみて、できなかったらできないし、できるんだったらがんばりたいですね。

—人の役に立ちたいという気持ちは昔からですか。

そうかもしれないですね。小学校の成績表を見るとそういう感じがします。人と助け合う子みたいなのを書かれていたような。自分は、自然に、困っている人をほっとけないんです。子供たちにも言っていますし、フィリピンから来たば



フィリピン大使館出張領事サービスで

(※1) 市民陸軍訓練。フィリピンで義務付けられている全ての中学4年生に義務づけられている。公立・私立学校問わず、この訓練は卒業要件となっている。

(※2) フィリピンの代表的な家庭料理。フィリピンの肉じゃがと言っても、酢を使ったさっぱり煮込み料理。

(※3) 平成24年度まで行われていた通訳型日本語教室。現在は、委託を受けたNPOから市立小中学校に支援者が派遣され、外国人児童生徒に対し、日本語・学習支援が実施されている。

(※4) NPO法人浜松外国人子ども教育支援協会